

プロジェクト 中期運営方針

項目 財務諸表利用者に対するアウトリーチの結果の概要

I. 本資料の目的

1. 本資料は、現在策定中の新しい中期運営方針の案について、財務諸表利用者に対して実施したアウトリーチの結果の概要を紹介することを目的としている。

II. アウトリーチの概要

2. 第 414 回企業会計基準委員会(2019 年 8 月 9 日開催)で審議した中期運営方針の案について、財務諸表利用者のご意見を把握することを目的として、財務諸表利用者に対して、アウトリーチを実施している。

以下では、当該アウトリーチで聞かれた主な意見を記載する。

III. アウトリーチで聞かれた主な意見**(「高品質」について)**

3. 日本基準の開発に関する方針について、最初に「高品質」の記載をすることには賛成である。しかし、「国際的に整合性のあるもの」がすなわち「高品質」であるというようにも読めるため、表現について考慮が必要ではないか。
4. 「作成者にとっての過度な負担」という表現については、判断基準を示すなどより明確な記載とするべきではないか、また「過度な」という表現は強すぎるのではないか。

(「日本基準を国際的に整合性のあるものとするための取り組み」について)**リース会計について**

5. リース会計については、企業の評価を ROIC に基づいて行う場合など、資産負債がオンバランスされている方が理解しやすい場合が有り、日本基準と IFRS 適用会社との比較可能性の確保の観点から、早期に検討を進めていただきたい。

保険会計について

6. 保険会計については、IFRS は再改正の手続きが行われている一方、FASB では適用に向けて準備が進められているため、米国の状況を把握することが必要だと考える。

7. 保険会計の取り組みに関する記載がわかりにくいため、より端的に記載する方が良いのではないか。

具体的な取り組みの記載について

8. 現在取り組んでいる収益認識に関する会計基準の表示、開示の論点や、見積もりの注記に関する論点などを、日本基準の高品質化のための具体的な取り組みとして言及しても良いのではないか。
9. 「その他の日本基準の開発」で記載されている基準は、現在取り組んでいる基準と比較した場合、重要性の点から記載する必要があるか疑問である。

(「開示に関する方針の整理」について)

単体開示における注記について

10. 単体財務諸表の注記については、税金や配当の情報に関連する物であり、一律に単体財務諸表の注記が不要であるという意見には賛成できない。高品質化という観点からは、単体開示も含めて「過度な負担」かどうかという点を踏まえて考える必要があり、現状の水準の開示は必要であると考えている。

(「国際的な意見発信の強化」について)

11. JMIS についての今後の位置づけを明らかにすべきではないか。

以 上